十月(October)の校長　２年理数科課題研究中間発表会（R4.10.27）

１０月も後半となり令和４年度も折り返しを過ぎたところで、２年理数科の課題研究中間発表会がありました。大変お忙しい中、島根大学御園真史先生、シマネ益田電子三浦陽平様、日本サイエンスサービス前田義幸様、浜田商業高校平野謙二校長先生、西部高等技術校濱崎俊一様、島根中央高校から細田実先生の６名の審査員の方々にお越しいただきました。

この益田高校理数科の課題研究は、１９年目を迎えるＳＳＨ事業の取組みの柱となるものであり、過去、理数科の先輩達も部活動に勉学に忙しい中、時間を作り熱心に研究に取り組んできました。その取組みや経験は、その後の大学または社会に出てからの様々な場面で役に立つものであり、大切な学びであります。

２年理数科は、ちょうど２週間前、関東研修で普段経験できない大きな刺激を受けてきたばかりであり、その関東研修での学びをこの課題研究にも活かしてもらいたいとお願いしました。

私も１０月初旬に、和歌山での『全国理数科教育研究大会』に参加し、沢山の刺激を受けてきました。全国の理数科での課題研究の理科部門、数学部門の取組状況の説明に加え、会場ホワイエでの和歌山向陽（こうよう）高校などを中心に３０ほどのポスターセッションがあり、熱心に語っている姿に感心しました。また、興味深い内容も多かったです。

何よりも、『近畿大学マンモス復活プロジェクト』の演題のもと、三谷匡（たすく）教授の記念講演はマンモスの化石についての内容も大変興味深いものでしたが、最後に課題研究の取り組みへのメッセージを語られたのが、とても印象に残りました。

「どんな山でもいいので、まずひとつ登ってみよう！
　　それが低くても簡単でもいいんです！　登れば次の山が見えてきます。
　　その経験から、何事にも真実を知りたい気持ちが湧いてきます！」
「失敗は当たり前！　研究していると実験など失敗の連続です！
　　失敗しないと始まらない！　ただ、理由もなく失敗していてはダメ！
　　何故、失敗したのかを考えることが最も大切なのです！」
「やってみなはれ！　やらなければわかりまへん
　　考えてみなはれ！　考えてみないとわかりまへん」と熱く関西弁で語られました。

毎年そうですが、これまでに課題テーマの設定には大変苦労したと思います。

その後、その課題への疑問や仮説に対しての実験・検証の方法に悩み、上手くいかないこともあったかもしれませんが、この中間発表での質問や意見、助言などを参考にして、今後やるべき方針や内容が、ある程度見えてきたのではないでしょうか。

何よりも審査員の前田様が、各班に質問されたことが最も大切だなと感じました。
「ここまで研究してきて、おもしろいと思ったことは何ですか？　今一番知りたいと思うことは何ですか？」その答えこそ、君達がこれから深めていく益田高校での課題研究なんですよね！